

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	◎	その他専門店〔ワイン〕 (従業員)	・新型コロナウイルスが収束することで景気が良くなることを期待している。
	○	一般小売店〔酒〕(経営者)	・Go To Travelキャンペーンに加えて、プレミアム付商品券の再発行なども検討されていることから、先行きはやや明るくなると期待している。
	○	百貨店(営業販促担当)	・10月を目安に商材の入荷状況が徐々に戻る予定となっている。また、新型コロナウイルスの感染が拡大しない限り、イベントなども行えるようになるため、景気回復に向かうことを期待している。
	○	乗用車販売店(経営者)	・前年10月の消費税増税後、販売の低迷が続いていたため、今後については反動増が期待できる。また、新型コロナウイルスの影響がみられる一方、新型車効果も見込めるため、景気は上向くと期待している。
	○	乗用車販売店(従業員)	・新型コロナウイルスの動向が少しは落ち着いてくることで景気がやや良くなると期待している。
	○	自動車備品販売店(店長)	・新型コロナウイルスの状況にもよるが、今後は少しずつ消費が上向くことが見込まれる。
	○	旅行代理店(従業員)	・インバウンド需要の回復には数年が掛かるとの見解が浸透してきているものの、国内旅行の需要喚起策や航空会社の国内線テコ入れなどにより、下期には需要が拡大すると期待している。現在、観光地にはぎわいを取り戻してきているが、道内客と道外からの個人客が主体であり、団体客の回復が待たれる。
	○	旅行代理店(従業員)	・飽くまでも2～3か月先の新型コロナウイルスの感染状況が現在よりも落ち着き、拡大していないことが前提であるが、修学旅行などの学校関連の団体旅行取扱が予定されていることから、現状よりは景気が上向くことになる。ただ、新型コロナウイルスの感染状況によっては全て取消しとなる可能性もあり、予断を許さない状況にある。
	○	旅行代理店(従業員)	・人や物の動きが今より悪くなるとは考えられないことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの状況次第だが、消費に明るさがみえ始めていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	通信会社(企画担当)	・毎年9月に発売されている米国製の人気通信端末が需要を押し上げることを期待している。ただ、驚くような機能が付加されることは少なくなってきたため、劇的に景気が良くなることまでは想定できない。
	○	観光名所(従業員)	・ウィズコロナの中、国内客の観光動向が徐々に回復していることは間違いないため、今後の景気はやや良くなる。ただし、インバウンドの観光入込が以前のような水準まで回復するのはまだ先のことになる。そのため、8月と比べれば確実に景気は良くなるが、全体的な景況感は厳しいままと見込まれる。
	□	商店街(代表者)	・秋冬にかけての新型コロナウイルスの再流行が懸念されるが、効果的な対策がなく、現状の対策を推し進める以外に方法がないことから、今後も景気は変わらない。
	□	商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの状況次第の面もあるが、今後は暖房費の掛かる時期となり、客が出控えるようになることから、景気は悪い状態のまま変わらない。
	□	商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの影響は年末まで収まらないと見込まれるため、今後も景気は変わらない。
	□	百貨店(売場主任)	・これ以上の景気の悪化はないとみているが、今後も景気の悪い状態が継続する。全国的に新型コロナウイルスが小康状態にならないと景気は上向いてこない。
□	百貨店(販売促進担当)	・これから秋冬に向けて、新型コロナウイルスの感染が拡大する懸念が拭えないことから、来客数、買上客数などの指標は一進一退を繰り返す。また、売上シェアの高いインバウンド客の動向が不透明であるため、以前の水準まで回復するには時間が掛かる。	
□	スーパー(店長)	・新型コロナウイルスに対する理解が深まることで、現時点よりは景気が回復するとみている。ただ、新型コロナウイルスの発生以前の状況に戻ることはないため、全体的な景況感としては今後も変わらない。	

□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスへの対応がまだしばらく続くなか、消費者のマインドとしては節約意識が強まるが見込まれる。大きな景気対策でもない限り、前年の消費税増税前にみられたような活発な消費行動が起こる可能性は極めて低い。
□	スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの影響が続き、新しい生活様式の模索が続いているなか、今後の消費動向は、業態による好不調こそあるものの、全体としては様子見の状況で推移することが見込まれる。
□	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの影響もあり、外販の売上は悪い状態が続くとみられるが、夏場と比べれば減少幅は小さくなる。一方、店内での売上は前年のキャッシュレス・消費者還元事業の反動減が生じることが見込まれ、前年よりも苦戦することになる。そのため、外販の回復分が店内の減少分で相殺されることになり、景気は悪いまま変わらない。
□	乗用車販売店（経営者）	・8月も引き続き新車受注台数が前年実績を上回るなど、当社の新車販売は順調に推移している。今年の5～6月を底に潮目が変わってきていることから、今後も景気は変わらないまま推移する。
□	乗用車販売店（従業員）	・北海道の場合、2～3か月後は冬の始まりとなり、例年冬になるにつれて売上が落ちる傾向がある。ただ、現在の雰囲気から、景気はそれほど変わらないまま推移するとみられる。
□	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの状況次第の面もあるが、今後も現在の経済状況のまま推移するとみられることから、景気は良くも悪くもならない。
□	高級レストラン（スタッフ）	・家庭での食事が多いこと、観光客の予約が伸びてこないことなどから、当分の間、飲食店の景気が良くなることは期待できない。SNSからは外食が増えているようにみえるが、一部だけの動きであり、飲食店利用は新型コロナウイルスの流行前と比べて減ったままである。今回の首相交代が経済的にプラスになることを期待している。
□	観光型ホテル（スタッフ）	・Go To Travelキャンペーンにおける東京都の扱いが不確定のため、期待薄と言わざるを得ない。東京都を始めとして首都圏の感染者数が減少し、ビジネスと観光の人員が回復するまで現状のままで推移する。
□	旅行代理店（従業員）	・Go To Travelキャンペーンが行われているが、警戒をしながら旅行をする客よりも、警戒をして旅行をしない客の方がはるかに多い。新型コロナウイルスのワクチン接種を受けることができるようになり、感染状況が収まるまで、以前のような客足は戻ってこない。
□	タクシー運転手	・今の状況を見る限り、これから冬に向けて、どのような状況になるのか想像も付かない。
□	観光名所（職員）	・新型コロナウイルスの影響で先行きの全くみえない状況が今後も続く。まずは国内観光客の需要喚起が先決であるが、Go To Travelキャンペーンの効果も今一つみえてきていないことから、今後、第2～3弾の継続的な経済施策が望まれる。
□	美容室（経営者）	・店内が密にならないように8月も予約で調整しているため、以前のような売上が望めない。予約が集中した場合は断ることになるため、今後、新型コロナウイルスが収まるか、ワクチンが普及するまで従来のような売上が望めない。
□	美容室（経営者）	・ここ3か月、売上、乗客数共にほとんど変わっていない。前年と比べてもほとんど変わっていない。景気が変わるような要因も見付からないため、今後の景気は良くなるとも悪くなるとも考えられない。
□	その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー]（従業員）	・今の状況から、今年一杯は観光客の入込を期待できない。
□	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスが終息するまで、現在のような状況がずっと続く。
▲	商店街（代表者）	・毎日、感染者何名、重症者や死者何名といった報道ばかりで、新型コロナウイルスに対する恐怖感が助長されていることから、今後ますます経済が回らなくなり、厳しい状況になる。他の感染症やインフルエンザなどと比べて、新型コロナウイルスがどのようなウイルスなのか、最新の情報を常に出していくことが重要だ。

▲	一般小売店 [土産] (経営者)	・新型コロナウイルスの感染拡大が続く限り、旅行しようという気持ちになれないとみられるため、地方の観光地、空港、鉄道会社などは苦戦することになる。今後数か月は、旅行業界や観光業界の悪循環が続くことになり、冬になると一層厳しい状況になる。
▲	百貨店 (役員)	・新型コロナウイルスのピークを過ぎたことで回復基調にあるように見えるが、今後の新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか判断が付かないため、景気はやや下向きとなる。
▲	スーパー (店長)	・新型コロナウイルスの影響で、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー (役員)	・新型コロナウイルスの影響が続くなか、政府の政策が生活者の行動を左右することになるため、今後の景気がどうなるかは判断の付かない面がある。ただ、軽症の感染者が生活圏内に多くなれば、今以上に自分を守る行動を取るようになるため、消費者の出控えがますます進み、経済が悪くなることになる。
▲	スーパー (役員)	・当地域では新型コロナウイルスの感染者もほとんどみられないことから、自粛解除後の消費者の警戒心は緩んできているが、観光客などの人の動きが戻らない限り、以前のような景気の状態には戻らない。
▲	コンビニ (エリア担当)	・地域の主要産業である漁業の動向が芳しくないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ (エリア担当)	・周りの人の消費マインドが低迷し続けているため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	家電量販店 (店員)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまで人出が増えることを期待できないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	その他専門店 [医薬品] (経営者)	・今年に入ってからドラッグストア業界は好調といえるものの、その中身をみる限り、客の健康利益につながっていないため、今後の景気はいずれ悪化することになる。
▲	スナック (経営者)	・新型コロナウイルスが収束し、普通の状態に戻るまでまだまだ時間が掛かるとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	タクシー運転手	・Go To Travelキャンペーンなどの効果に期待していたが、今のところその影響は感じられないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	住宅販売会社 (経営者)	・今後、新型コロナウイルスの影響により、全体的な所得の低下がますます進むことになる。その影響は長引く可能性が高いため、分譲マンション市場における悪影響はこれから徐々に強まることになる。
×	商店街 (代表者)	・今後については、オフシーズンを迎えるなか、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が生じることになるため、景気は悪くなる。
×	商店街 (代表者)	・Go To Travelキャンペーンが始まったこともあり、お盆の時期には観光客が少しみられたが、お盆が終わると全くといっていいほど観光客がいなくなった。これから9月は秋の行楽シーズンとなるが、現状、予約は全くみられず、壊滅的な状況が続いている。北海道の観光のオンシーズンは9月までであり、そこで稼ぐことができなかった観光事業者は冬を越す体力がなくなり、いよいよ倒産となる可能性が高い。このままでは国内の観光産業が死に絶え、復活は難しくなる。観光業界は零細企業が多いため、これらの企業を救う手立てを早急を実施すべきである。
×	一般小売店 [土産] (経営者)	・前月の売上は前年比14.5%だったが、8月はお盆があったこともあり、前年比22.5%まで上昇した。ただ、お盆が終わった後は、それまでのゴーストタウンのような状態に戻っていることから、今後の景気は悪くなる。
×	コンビニ (エリア担当)	・各社の業績、決算内容について悪い数字が出ていることから、当分、景気の悪い状態が続くことになる。
×	衣料品専門店 (店長)	・紳士服業界の景気の底はまだみえない状況にある。衣替えも進まず、メーカー仕入れにも影響するなど、負の連鎖が止まらない状況にあることから、今後の景気は悪くなる。
×	その他専門店 [造花] (店長)	・来客数が減少したまま戻っていないことから、今後の景気は悪くなる。

	×	高級レストラン（経営者）	・例年、冬になるとインフルエンザが流行するが、今年は新型コロナウイルスの再流行も考えられるため、人が出歩かなくなると懸念している。また、観光客も春先と比べれば増えているが、人数自体は例年よりも少ない。これらのことから、今後は観光客も地元客もますます減ることになり、景気は一層悪くなる。
	×	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス対応の限界がみえ始めていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	観光型ホテル（経営者）	・冬季は元々閑散期であり、例年道外からの団体客やインバウンドが主体となる時期のため、今後の集客の悪化が懸念される。
	×	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの先行きの見通しが立たず、人々が不安を抱えたまま、買い控えていることから、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・例年9月から涼しくなり、過ごしやすくなることでタクシーの利用が減る傾向がある。今年は新型コロナウイルスがいまだに終息する気配すらないことから、特に夜のタクシー利用客がいなくなることが見込まれ、相当厳しい状況になる。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者が主要都市部から地方へとじわじわ広がりをみせている。地方での感染発生は都市部と比べて影響力が強く、住民の行動を強力に抑制することになる。そのため、今後の景気の悪化は避けられない。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者数について、専門家の認識ではピークを過ぎたと報道されているが、当社の場合、このままでは従業員の雇用の確保もままならない状況にある。雇用を続けるためにも、第2～3の政府の経済対策、早期のワクチン供給体制の構築が必要である。
	×	美容室（経営者）	・現在のような状態をずっと続けるしかないのであれば、希望を見いだせない。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—
	○	輸送業（支店長）	・新型コロナウイルスの影響で例年よりも物流量が少なくなっている傾向にあるが、物流業にとっては秋が繁忙期であるため、今後の景気は今よりも多少良くなる。
	□	食料品製造業（従業員）	・今以上に景気が悪くなることはないと思われるが、景気が良くなるような案件も見当たらない。
	□	家具製造業（経営者）	・全般的に景気の落ち込みがひどいことから、この影響は相当長引くことが見込まれる。今後、企業倒産が増えるなど、危機的な状況が来ることも懸念され、楽観できない状況にある。
	□	建設業（経営者）	・公共工事については例年と同様のペースで発注が行われている。一方、民間建築については引き合いが少なく、特に戸建て住宅はかなりのダウンとなっている。今後の景気は新型コロナウイルス次第の面があるが、来春くらいまでは期待できない状況が続く。
	□	建設業（役員）	・新型コロナウイルスの終息と経済のV字回復が一向に見通せないことから、次年度以降の受注見通しが立たない状況は今後も変わらない。
	□	通信業（営業担当）	・企業活動全般は以前の状況に戻ってきているものの、北海道は気温が低い地域であるため、秋以降の新型コロナウイルスの感染状況について見通しが立たない面がある。そのため、今後については、一定の経済活動によるプラスの影響と新型コロナウイルスの拡大予防処置などによるマイナスの影響が相殺されることになり、景況感は現状維持で推移することになる。
	□	司法書士	・新型コロナウイルスの影響により経済社会が変化しており、以前の状態に戻る時期がいつになるのか見通しが立たないことから、今後の景気は現状のまま推移する。
	□	コピーサービス業（従業員）	・現在の状況から、今後の景気はしばらく横ばいで推移する。
	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・現在の好調な状態は年内一杯続くものとみられるが、来期以降、民需を中心に設備投資の伸びが鈍化することが見込まれる。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・新型コロナウイルスの動向次第の面があるが、今後も景気に大きな変化はないとみられる。

	▲	建設業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響が長引く見通しにあることから、これまで観光業界にとどまっていた民間建設投資の停滞が製造業を始めとした他の業界にも広がっていくことが懸念される。そのため、今後について多くを期待できない。
	▲	金融業（従業員）	・新型コロナウイルスの流行に伴う新しい生活様式への対応が企業経営の足かせとなっており、特に小規模、労働集約的な企業が多いサービス業における影響が大きくなっている。今後、収益確保の難しさが企業の資金繰りに悪影響を与える。また、持続化給付金などの支援効果が剥落することなどが見込まれることから、経営難に陥る企業が増加することが懸念される。このため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・新型コロナウイルスに対する特効薬ができない以上、景気回復の道筋はみえない。また、現首相の辞任による影響や後継者選別に係る権力闘争などが国民に関係なく進むことで、ますます政治離れが進むことになり、後継者も思いきった政策を打ち出すことができなくなる懸念される。このため、今後の景気はよくて現状維持、状況によってはやや悪くなることが見込まれる。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・今後の景気が良くなるとは見込めないが、どの程度の落ち込みとなるのかも想像できない。新型コロナウイルスの状況次第で大きく変わることになる。
	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・客先の仕事に変化し、予定していた案件の取りやめや延期などが発生していることから、先行きの不透明感がある。
	×	金属製品製造業（従業員）	・直近の新築住宅着工件数が減少している影響が、今後2～3か月後に出てくることになる。さらに、様々な業界の業績悪化も見込まれるため、景気が後退し、新規設備投資が減少することになる。
雇用 関連	◎	—	—
	○	*	*
(北海道)	□	人材派遣会社（社員）	・いまだに先が見通せない状況にあり、企業活動の停滞感が強い。このような状況でも業績を確保するため、優秀な営業マンを採用しようとする企業が一部でみられるが、選考基準は厳しくなっており、普通のスキルでは採用に至らない。企業の現状を変えられるレベルの人材でなければ、企業も採用に動かない。こうしたことから、新型コロナウイルスの影響がボディーブローのように効いてきており、企業が先の見通しに不安を持っているようにみえる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルスの感染者が地方にも広まってきていることから、求人マインドが今一つ伸び悩んでいる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・このまま新型コロナウイルスの感染者の数が増えず、大きなクラスターも生じなければ、景気は現状のまま推移する。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・ウィズコロナの生活様式が普及することにより、経済活動にももう少し動きが生じることが見込まれる。ただし、今後の感染状況の推移、集客難や売上減に伴う企業の倒産、閉業などの懸念材料もある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・全ての行動が新型コロナウイルスに影響されている。取引先からは、在宅時間が長いことで熱帯魚やペットを飼い始める人が増えているといった話や、結婚式を実施するカップルや割引キャンペーンを活用した旅行が徐々に増えているといった話を聞く一方で、新型コロナウイルス発生以前の売上水準に戻すことができない業界があったり、体力のない中小事業者からは秋以降の事業継続が難しい、事業継続はするが人員の整理が必要などの声も聞こえている。
	□	職業安定所（職員）	・夏場を迎えたことで景気は若干上向いているが、秋の観光シーズンを迎えて、景気が大きく変化することまでは考えられない。
	□	職業安定所（職員）	・当地における新規求人数は前年比マイナス30.1%、月間有効求人数は前年比マイナス24.1%となっており、共に減少しているが、今後、経済活動が回復することで、求人数も有効求人倍率も徐々に復調することが見込まれる。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・今後も景気が悪いまま横ばいで推移する。リーマンショックの時と違い、出口の見えないウイルスが相手であることから、今後の収束がみえてこない以上、景気の悪化は続くことになる。2021年新卒の学生の就職活動も学生の心が折れて終わってしまうことを心配している。

	▲	職業安定所（職員）	・有効求人倍率は4か月ぶりに前年を上回ったが、有効求人数は前年を下回った。多くの業種で新型コロナウイルス感染症の影響が生じていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	—	—